

## 令和3年度東亜大学自己点検・評価報告書に関する外部評価

東亜大学は医療学部医療工学科、医療学部健康栄養学科、人間科学部心理・臨床子ども学科、人間科学部国際交流学科、人間科学部スポーツ健康学科、芸術学部アート・デザイン学科、芸術学部トータルビューティ学科という3学部7学科で構成されている。また大学院総合学術研究科を併設し、通学制・通信制でも多くの学生が学んでいる。

建学の理念を「国際的な場で学際的な研究・教育を実施し、他人のために汗を流し、ひとつの技術を身につけた人材の育成を目的とする総合大学を目指す」としている。

東亜大学学則には目的として「教育基本法に則り学校教育法の定めるところに従って、未来社会の要請に答え得る教育の環境を常に大学内に求め、人間教育並びに高度の専門職業技術教育とその研究とを実施し、もって福祉国家の創造に積極的に参加し、更に世界観に立脚して多民族の繁栄にも寄与し得る、独創的な頭脳・奉仕の精神・健全な身体を兼ね備えた人材の養成をすることを目的とする」を挙げている。さらに長期ビジョン、中期目標、中期計画を掲げ、全学的な取り組みを行っている。今回の外部評価では上記の建学の理念、目的及び中長期の目標・計画に基づき、令和3年度の東亜大学自己点検・評価報告書について外部評価するものである。

### <学部>

東亜大学の3学部7学科（医療学部<医療工学科、健康栄養学科>、人間科学部<心理臨床・子ども学科、国際交流学科、スポーツ健康学科>、芸術学部<アート・デザイン学科、トータルビューティ学科>）は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーに基づき、カリキュラムの工夫により学習効果の高い授業の実現や求められる学生像・人材育成について、令和3年度もそれぞれの学科の特色を活かした形で積極的に取り組んでいる。

教学においては教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーを策定し、広く周知している。「他人のために汗を流し、一つの技術を身につける」という教育理念は、ディプロマ・ポリシーの「1. 知識・理解」の「幅広い教養」「専門職業人として必要な知識・理解」、「2. 技術」の「専門職業人として必要な技能」、「3. 態度・志向性」の「社会への奉仕の精神、人を思いやる心」といった言葉において明確に反映され、教職員が一丸となって教育理念の実現に力を尽くしている。二つ目の教育理念である「地域に生き、グローバルに考える」という理念は、「3. 態度・志向性」の「グローバルな視点から物事を把握しようとする態度」に示され、国際交流事業に発揮されている。この全学ディプロマ・ポリシーに基づいて各学科及びコースのディプロマ・ポリシーを策定し、すべての学科で「知識・理解」「技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と想像的思考力」の4領域に区分して設定されており、専門科目を通して教育理念の達成を目指している。

令和3年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響で対面授業や大学生

活が大幅に制限された状況であった。東亜大学だけではなく全国の多くの大学の共通の課題となったが、東亜大学は大人数の授業を遠隔化し、どうしても対面でなければできない実験・実習科目については感染状況が落ち着いた時点で対策を徹底的に行い授業を実施した。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で教育の質について懸念されたが、大学が毎年実施している1年生、3年生、卒業生対象の学修成果アンケートでは、例年と変わらない結果となっており、学生への教育の質は担保されたといえる。コロナ禍でも学習意欲を持ち続けた学生及び教育の質を低下させなかった教職員へ敬意を表したい。

複数の学科では柱となっている国家試験対策や各種資格の取得も各学科が積極的に取り組んでおり、キャリア支援とリンクさせながら学生の満足度向上に貢献している。ただ国家試験合格率は昨年度より上昇している資格もあるが、昨年度を下回った試験も少なからずあったため、教職員が一丸となつてのさらなる試験対策の充実が求められる。

東亜大学ではこれまでも、社会の教育需要を捉え適切な改革を行ってきた。令和3年度の自己点検・評価報告書の記述を見ても、2年目となったコロナ禍においても学生の立場に寄り添い、きめ細かに効果的な教育改革を実践してきたことが十分に理解できる。今後も引き続き、優れた人材育成に努め、建学の理念に基づいた「国際的な場で学際的な研究・教育を実施し、他人のために汗を流し、ひとつの技術を身につけた人材の育成」ができる総合大学として、地域・社会に貢献できるような教育機関となっていくことが期待される。

## <大学院>

大学院総合学術研究科は医療科学専攻、人間科学専攻、デザイン専攻、臨床心理学専攻を有し、通信制は法学専攻、人間科学専攻、デザイン専攻を有している。

中期目標に①大学院の教育の体系化、②人材育成、③生涯学習、④教育改革、⑤実学教育、⑥学生サポートを掲げ、シラバス公開、教育内容の見直し、学生個々の専門性志向に応じた教育、生涯学習におけるキャリアアップのための目標設定、高度職業人の育成に力を入れている。

大学院研究科においてもそれぞれのディプロマ・ポリシーを策定しており、それぞれの専攻分野における固有の学識と技能を、そこに隣接・関連する分野への広がりにおいて修得し、それぞれの分野において高度専門職業人として貢献できる人材を育成するために、この実力を身につけた修了者に学位を授与することが定められている。このディプロマ・ポリシーは、大学院の目的に掲げられた「理論と実学の両面にわたって学術研究の精深を究め」、「奉仕の精神と健全な身体をそなえ、人びとの幸せと学術の進展に寄与しうる人材を育成する」という趣旨に通じており、学生には学生便覧等で広く周知している。

## <内部質保証>

東亜大学では2009年に、「自己点検・評価委員会」が設置され、それ以降、自己点検・評価が実施され、その結果が公表されている。自己点検・評価委員会は、(1)教育活動、(2)研

究活動、(3) 組織及び運営、(4) 施設及び設備、(5) 自己点検・評価結果の公表、(6) その他について自己点検・評価の審議を行うとされる。「自己点検・評価委員会」の下には、自己点検・評価報告書の企画、作成等の実務を行う「自己点検・評価実施委員会」が組織されており、自己点検・評価の実施方法の提案、報告書の取り纏め等を行っている。報告書は、「自己点検・評価委員会」での審議を経て、その後、全教職員・学生及び広く社会に公表するために、ホームページで公開している。

各部局は毎年、前年度の点検を踏まえて、新たな課題を設定し、その実現に取り組み、年度末に点検・評価を行い、次年度の新たな課題を検討することになっている。「第3期中期計画」に基づいた PDCA サイクルによって改善・改革を進めていく体制を整備し、令和3年度もこの PDCA サイクルに基づき運営されてきた。今後も自己点検・評価活動による課題や展望を踏まえ、中期計画を達成することが期待される。

### <東亜大学への提言>

2年以上続く新型コロナウイルス感染拡大の影響で、従来にもまして日本の大学を取り巻く環境は厳しくなっている。少子化、高齢化、経済の先行きの不安、大学間の競争の激化等々、マイナス要因を挙げていけばきりが無いともいえる。ただそのような状況であればこそ東亜大学が地域や社会に対して存在意義を明らかにしていかなければならない。

このような状況の中、「生涯学習」の必要性は論を待たないだろう。東亜大学はいち早く社会人入試制度や大学院での通信制設置し、他大学と比較しても生涯学習に積極的に取り組んできている。

ただ、急激な高齢化という環境の中で急増している高齢者や定年を迎えた方々の学びの場については全国的に見ても対応できている大学はまだまだ少ないと言える。東亜大学は総合大学として、医療系、人間科学系、芸術系、健康系、美容系等々、高齢者の興味がある分野が幅広くあり、専門の教員も充実している。社会人に門戸を開いている東亜大学には、さらに通常の社会人枠を越えて、幅広く高齢者や定年を迎えた方々を視野に入れた生涯学習の機会を提供していくことを期待したい。そのような方々の学びのニーズに応えることが地域の貢献・大学の発展に繋がると考えられる。また、キャンパス内に経験豊かな高齢者が入ることで、在学生の刺激ともなるのではないかと思われる。

この提言は新型コロナウイルスの影響で今後の見通しが困難な中、施設の完備や必要な人員の配置、行政との調整等、準備の時間がかかると思われるが、大学の使命としてぜひとも検討していただきたい。

令和4年10月25日

東亜大学自己点検・評価外部委員

富永 洋一

山崎早緒吏